

栄養部

チーム医療を軸とした栄養・食事療法により
疾患に対する専門性の高い栄養介入を行い治
療継続をサポート

栄養管理における高い専門性の発揮

東邦大学医療センター大森病院の栄養部は、特
定機能病院、がん診療連携拠点病院の認可を受
けた病院の栄養管理部門として、医師(教授) 3
名、管理栄養士 17 名、調理師 17 名が在籍して
います。管理栄養士は、がん病態栄養専門管理栄
養士や摂食嚥下リハビリテーション専門管理栄
養士などの専門管理栄養士が在籍しており、そ
の他にも専門学会が認定する糖尿病療養指導士
腎臓病療養指導士、肺疾患専門療法士、周術期・
救急集中治療専門療法士など、病態に応じた専
門資格を有する管理栄養士が多数おり、食事療
法による栄養管理をはじめ、輸液による静脈栄
養法の提案、胃瘻や腸瘻、食道瘻、経鼻胃管など
を必要とする方への経腸栄養法による栄養治療
計画の作成も行いながら、質の高い栄養管理に
努めています。

がん診療連携拠点病院として化学療法・放射線 療法における食欲低下や術前・術後の体重減少 に対する栄養管理と栄養指導の実施

抗癌剤による化学療法の問題点として、正常細

胞に対しても細胞毒性が発揮され、副作用(有害
事象)が発現します。化学療法における副作用の
発現とその程度により、食欲低下や味覚異常、悪
心・嘔吐、口内炎、下痢症状などの消化器症状の
頻度が高く、その副作用により栄養障害が起こ
り、体重が減少します。特に消化がん患者では、
存在する腫瘍自体やその腹膜播種、腹腔内リン
パ節転移などによる消化管の通過障害などで、
食事が制限されることがあります。食事を摂る
ことに支障が出ることで、低栄養を招くことは
少なくありません。一旦低栄養に陥ると体重減
少を招き、活動量は低下し、治療継続が難渋し、
治療継続時間が短くなることで化学療法の効果
も低下し、予後も悪くなり、逆に体重減少が抑え
られた症例では、予後も改善したことが報告さ
れています。副作用を和らげ、抗癌剤による治療
継続を支援するために重要な治療法の一つが、
栄養・食事療法です。

栄養部では、がん病態栄養専門管理栄養士が
様々な症状がある中で、栄養指導を通じて栄養
を摂る工夫を患者さんと一緒に考え、食事低下
に起因した要因を和らげるアドバイスを行うこ
とにより、がん切除術後の術後障害の症状緩和、
抗癌剤治療や放射線治療の継続と共に、
QOL(Quality of Life)の低下を防ぎ、栄養状態の
改善に導きながら、治療が継続できるようサポ
ートしていきます。

患者さんに寄り添う個人対応の食事調整により 低栄養の改善を目指します

疾病の治療効果を高める上で栄養状態を良好に
保つことは重要です。栄養部では、患者さんの病
態に合わせ、早期回復、治療に貢献できるよう
様々な特別対応の食事を提供しています。その
一つに頭頸部癌や消化器癌などの悪性腫瘍によ
り倦怠感や食欲不振が強い患者さんや抗癌剤治
療や放射線治療後に起こる副作用の影響で嘔気
嘔吐、口内炎、味覚・嗅覚障害で食欲不振を招い
ている患者さん向けに、少しでも無理なく美味
しく栄養補給を行っていただけのように、食べ
やすいサイズ、喉越し良い食感、味や匂いを工夫
し、少量しか食べられない場合でも栄養補給に
も繋がるように、栄養強化も図りながら、嗜好に
も配慮した様々な個別の食事調整に力を入れて
います。入院中の喫食患者さんの約半数に個別
対応の食事調整を行い、食事療養と食の楽しみの
両立を追求しています。

がん病態栄養専門管理栄養士
周術期・特定集中治療専門療法士
上席室長 古田 雅

